



# 絆プロジェクトⅡ

～ 日常実践の充実を目指した教育活動へのチャレンジ ～

学習環境

教育課程

体力向上

外国語

キャリア

平成 29 年 12 月 6 日発行  
No.14 文責 小林

キャリア

## 十勝の農家さんの共通した思い



11月28日、斎藤農場の斎藤一成さんをお迎えして「こだわりの土づくり」について授業をして頂きました。

まず、「十勝の土は、水はけが悪く、作物を育てるためには苦勞する。」というマイナスの要素が紹介されました。そのため暗渠（あんきょ）を設置して排水を促さなければならないが、自分達だけでは無理なので、土木業者の方の力を借りて行っていると・・・

また、自給率の話から、「十勝は1100%以上で、十勝だけでは消費できない十分すぎる食料が生産されているが、消費されなくては意味がない。そこで、運送業の方々の力を借りることで、本州や海外に十勝の食料を運んでもらうことができています。」と・・・

斎藤さんは、自らが行っているたくさんの努力の話からではなく、「十勝の農産業は、たくさんの方々

支えられて成り立っているんだ。」ということからお話して下さいました。自らの功績ではなく、支えて下さっている周囲の方々への感謝の気持ちからお話して下さったことに、子どもたちは、懐の大きさ、人としての魅力を感じたことだと思います。

そして、「ザリガニ堆肥の効果」についてもふれて頂くことができました。豊成小学校は、機関庫の川の環境改善の一環で「ウチダザリガニの駆除活動」を行っています。ただ駆除をするだけではなく、その命の大切さを感じると共に、命のつながりにも目を向け、駆除活動の意義を考える取組としています。斎藤さんから「ザリガニ堆肥がたくさん準備できるのなら、是非、うちでも使いたいくらいの効果が期待できます。」と言って頂いたことで、子どもたちがもっていた駆除活動への『抵抗感』を払拭し、駆除した命が無駄になっていないことを実感することができたと思います。本校の教育活動をご理解頂き、それに合わせて授業をして頂けることは、本当に有り難く、心強いばかりです。

最後に子どもたちへ「十勝に生まれ育ったことに誇りをもって欲しい。そして、将来、そのよさをたくさんの人に伝えてもらいたい。」という大きなメッセージを頂きました。このメッセージは、先日来て頂いた「ますやパン」の杉山さんがおっしゃっていたことと全く同じです。十勝の農業の素晴らしさを世界に発信するという責任を担ったプロの仕事人に共通した「十勝に生まれたことに誇りをもって欲しい。」という思いは、きっと子どもたちの心に響いたと思います。

初めてザリガニ堆肥を作った時は、本当に堆肥になるのか心配だったけど、今は、においもなくなり、ザリガニのかたまりもなくなってきたので、本当に堆肥になるんだと安心しました。これからは、心を込めて堆肥を作り、家で野菜を食べる時は、感謝して食べたいです。  
(1組 女子)

農家さんが困っている「作った野菜を全国に運ぶ仕事が少ない」という問題は、私達が解決できれば良いと思ったし、そういう仕事に興味をもちました。大人になった時に少しでも十勝の自慢ができるように、十勝の良いところをたくさん見付けられるように頑張ります。  
(2組 女子)

私達の食卓に並んでいる食べ物は、農家さんはもちろん、たくさんの方の手を渡り届いているということを改めて感じ、そのような人と人とのつながりに感謝すると同時に、そういうつながりをこれからも大切にしながら生きていこうと思いました。  
(3組 女子)